

新規青年就農者を積極誘致と農業委員による 担い手確保を拡大

(奈良県・高取町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

(特徴・状況) 高取町の農地面積は48,005.24haで、稲作による水田農業が盛んであるとともに、畑ではトマトやナス。近年イチゴ栽培も増えてきている。

(課題) 大多数の農家がサラリーマンとの兼業農家であり、一人あたりの作付け面積も少なく、現役の方々は農地を維持する程度であり、退職後本格的に農業へ移行した後に面積拡大する人が多い。しかし近年、農地を所有したまま町外へ転出するケースが多く、耕作放棄地化の拡大が懸念される。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 担い手不足解消のため、農業委員会では個々の地域内における耕作者を捜したり、遠方の農地所有者との折衝など意見調整をしたのち納得できる方法(小作、利用権、中間管理機構、売買)を探る等解決策を講じている。
- 町としては新規青年就農者を積極的に受け入れる方針(町単独での追加補助金制度あり)のため、農業委員も作物により事前の準備型受け入れも行っている。
- 日本書記でも、高取町近辺は古代より薬草の自生地帯であったと記されている。現在は、大和トウキの栽培を促進しており、遊休農地で約20名が作付けを行っている。

3 活動(取組と工夫)の結果

- 地域をあげての取り組みにより耕作放棄地拡大にブレーキをかけている。
- 新規青年就農者が収穫した野菜、果物はふるさと納税で好評を得ている。
- 大和トウキの葉は6次産業化し「大和当帰の湯」という入浴剤やささまざまなスパイス製品としても販売している。